

## 河川における高潮対策整備方針検討委員会（第1回） 議事要旨

日時：令和6年6月25日（火） 10：00～12：00

主な意見は以下のとおり。

- 各河川の優先度の考え方について、将来被害の深刻度にて「増幅要因」の中には人口が減るといったマイナスに増幅する要因も含まれることを意識したほうがよい。
- 気温上昇と海面上昇の関係性については、気温上昇が止まっても、海面変化の反応は遅く、時間差がある。一方で、台風の強さは気温上昇に応じて強くなることが最新の知見で言われている。現段階では、気温に応じて線形に変化する考え方でよい。
- 大阪湾で関西空港が浸水した時の検証事例も参考にして、高潮シミュレーションの妥当性を整理するとよい。
- 河川の計画において風に吹き寄せられて水面が上がっていくことを「遡上」と表現している。遡上を考慮するかしらないかで、対策が求められる橋梁の数や桁下高に影響があることや、浮き上り等に対する技術的な評価も必要となる。
- この委員会は議論の幅が広い。まちづくりや、道路、緑をどうするかなど様々な観点がある。ニューヨーク市のBigU計画は、公園整備などの様々な事業と連携して堤防整備を行った事例として参考になる。そうした海外事例の情報も次回の委員会で紹介してはどうか。
- スーパー堤防は避難地となるため、ある程度余裕を見込んだ堤防高であることが望ましい。拠点として高い避難地ができると考えれば、高さを新しいリスクに対して検討するなど、中長期的な議論は必要である。
- スーパー堤防促進策の検討において、昨年の気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会で、堤防内を活用した海外事例があったが、開発者のメリットをいかに作り出すかが重要である。あの事例は、だれが主体でどういったインセンティブで施設整備や開発が成り立っているのか、確認する必要がある。

以上